

友朋会理念 『患者さんのために』



contents

児童思春期外来「とまり木」と百日紅

- 1 目次
- 2 オレンジカフェ
- 3 西日本芸術療法学会参加
- 4 リワークの紹介／日精看優良表彰
- 5 看護の日イベント／ふれあい看護体験／職場体験
- 6 地域連携室通信／うれしカーニバル
- 7 第48回 友朋会秋まつり開催のご案内
- 8 理念・診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

オレンジカフェ「ゆ〜とアート」

平成29年8月より当院オリーブにて毎月第一土曜日の午後の時間(14時~16時)で、認知症カフェを開催させていただくこととなりました。

認知症カフェは、「認知症のことを第一に考えてつくられた集いの場」であり、そこには、ご家族、専門職、地域の方なども参加されます。基本的に決められたプログラムはなく、安心できる環境の中で、語らいや楽しみを感じることでできる仕掛けがあって、緩やかに認知症について考えることのできる時間にもなります。

8月は、12名の方に参加していただき、当院の利用者様にも足を運んでいただきました。山口和子主任から「熱中症について」の講話があり、短時間ではありましたが、皆さん真剣な表情で耳を傾けられていたのが印象的でした。

参加者にとって、ちょっとした息抜きや笑顔になれるような第三の居場所になっていくことを目指していきたいと思います。

始まったばかりで課題はありますが、是非様々な方に利用していただけるように、今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

主催：認知症疾患医療センター

報告者：認知症初期集中支援チーム 佐々木裕志



おれんじ カフェ 「ゆ〜とアート」



場所：総合案内(1F)

カフェ&ギャラリー

Olive (オリーブ)

《医療法人財団 友朋会内》

「最近、もの忘れが心配・・・」「介護のことで話を聞いてみたい」
いろいろな人たちが集まる場所を**オープン**しました。

おれんじカフェとは？

認知症の人やご家族、地域の人、専門職が気軽に集い語り合う場です。

年を取るとちょっとしたもの忘れがあったり、認知症になる可能性が誰にでもあると言われていきます。そのような症状が出ても慌てないようにいろいろな情報をお届けします。

新たな出会いがあったり、抱えていた悩みが軽くなったり、
介護をされていてお疲れ気味の方もホットひと休み・・・。

地域の中でお互い支え合いながら過ごしたいですね。

どんなことを？

- ・カフェを楽しみながら過ごしましょう
- ・病气や介護についてのミニ講話 ・介護の情報や相談
- ・創作活動、体操やレク ・アロマ(ハンドマッサージなど)

参加方法：当日参加も可能ですが準備の都合もありますので開催日前日までにご連絡下さい。

また、ご家族様のみ、もしくは家族同伴での参加をお願いします。

* お問い合わせ先

運営：医療法人財団 友朋会 認知症疾患医療センター
連絡先：TEL 080-8399-7553 (担当 山口まで)
住所：佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙 1919
(9:00~17:00 まで対応しています)



← 至 嬉野市街

至 波佐見 →

開催日 毎月第**1**土曜日
14時~16時まで

日程のご案内

* **11月4日(土)**

活動内容：「**手作り絵はがき**」

* **12月2日(土)**

活動内容：「**少し早いクリスマス会**」

* 飲食の持ち込みは、ご遠慮下さい。

西日本芸術療法学会

作業療法科 阿部

第46回 西日本芸術療法学会が6月4日アクロス福岡にて開催されました。当院からは11名が参加しました。今年の大会テーマは『高齢者と芸術療法』ということで、シンポジウムでは当院の森さん(芸術療法士)がグループホームで実践しているクラフトや箱庭療法などについて講演されました。認知症高齢者に対して芸術療法がどのような役割を担えるのか、また、どのような手段が使えるのかを考える機会となりました。今回のテーマを考えた時、二つの意味を理解する必要がありました。一つは「高齢者」、もう一つは「芸術」です。高齢者の心の様相についてはシンポジウムの中で「現在:寂寥感、現実状況に対する空疎感」「過去:懐古」「未来:死の予兆と孤独」と述べられていました。また、芸術については「表現すること」と以前、オイゲン・コウ先生が当院で行われたアートセラピー美術館祭の特別講演で述べられていました。高齢者の複雑な心の様相が表現する事で変化することを改めて感じました。また、認知症高齢者においても、その様子が今回の森さんの講演でみることができ、「表現すること」、「表現できること」は人が生き活きと生活するために、とても大切なものだと感じました。

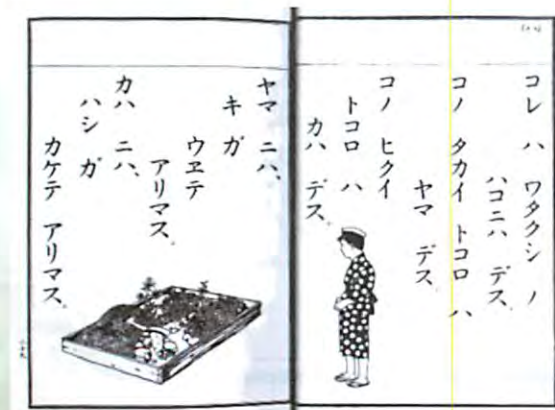
…ちなみに、

箱庭療法の始まりは、スイス人のドラ・カルフ(Dora Kalff)が「砂遊び療法」(Sandplay Therapy, Sandspiel Therapie)として確立したものでした。日本には1965年、河合隼雄により紹介されて広まっていきました。なぜ、直訳の「砂遊び療法」ではなく、「箱庭療法」なのかと言うと、日本で江戸後期から明治にかけて「箱庭遊び」というものが流行しました。これは、小さな箱の中に、小さな木や人形のほか、橋や船などの景観を構成する様々な物を配して、庭園や名勝など絵画的な光景を模擬的に造り、楽しむものでした。つまり、「砂遊び療法」と類似したものが古来より日本で行われてきていたことに着目した河合が「砂遊び」と直訳するよりも「箱庭」とした方がより親しみやすく広まりやすいのではと考えたのではないかと思います。

学会風景(森さん講演)



森さんの講演の中で『箱庭遊び』が国語の教科書に載っていたことを紹介されていました。



復職支援プログラムとは



▲グループワークの様子(写真はスタッフ)

最大5名程度の小グループで話しやすい雰囲気です。人と話すことが苦手、あがり症などの心配がある方は少しずつ慣れていけるようにお手伝い致します。

- ・うつ病およびストレス関連疾患が原因で休職・失職された方を対象として、毎週月、水、金曜日の9時から12時まで(途中10分休憩あり。昼食はありません)プログラムを実施しています。
- ・作業プログラム(仕事に関連する自学、読書、PC作業等を行い、リラクゼーションや余暇活動の提案をします)
- ・クラフト・ストレッチ(物づくりやストレッチ、軽運動を行って体力、集中力の回復を図ります)
- ・コミュニケーション(自分も相手も大切にコミュニケーションについて学んだり、ワークを行います)
- ・認知行動療法(物事の捉え方のクセに気づき修正したり、苦手なことに取り組むための工夫について検討します)
- ・グループワーク(1週間の過ごし方の振り返りや困ったこと、他のメンバーに聞いてみたいことなどを話し合います)などの各種プログラムを準備しています。それぞれの状況に応じて週1~3回参加して頂き、復職に向けての準備を行います。また、ご要望に応じてハローワークへの同行支援、就労移行支援やハローワーク障害者雇用枠の紹介など精神保健福祉士と連携してお手伝いさせて頂くこともあります。まずは臨床心理科担当者までご相談ください。

日精看佐賀県支部優良会員表彰を受けて

看護部 西3病棟 看護師 諸岡 和明



昭和57年3月入社後、長年精神科病棟で勤務させて頂き有難う御座います。日精看に入ったきっかけは、先輩看護師さんから精神科で務めるなら日精看に入ったが良いよと勧められ入会しました。これまで精神科に勤務し精神科看護に携わり患者さんの社会復帰や精神状態の安定を目指し日々努力して来ました。患者さんの様々な問題をチーム全体で協議しそれを共有しながら対応してきました。患者さんと作業療法やレクリエーション療法を一緒に行い信頼関係を築き治療に携わってきました。現在は、西3病棟で勤務しています。急性期や処遇困難・身体合併症を併発された患者さんが増え、個別に応じた対応が必要となっています。これまで養ってきた知識や経験を生かし、スタッフへ患者さんとの対応や退院支援策などチームリーダー的な役割の中で教育を行いながら日々精進して行きたいと思っております。

看護の日イベント開催

平成29年5月6日(土)「看護の日」の記念行事を開催しました。

74名の方に来ていただくことができ、健康相談を受けるとともに、血圧測定、体脂肪測定、骨密度測定を行っていただきました。

骨密度測定は参加者の興味を引き、骨密度測定結果で骨粗鬆症と判定される方が多く「どうしたらいいですか」「何を食べたらいいですか」など栄養相談にも多くの方に参加していただきました。

認知症・介護についての相談もありました。

今後も認知症関連を含む、健康相談を地域の方々が気軽に相談できるような企画を検討し、当院の「看護の日」の行事に多数参加していただけるように工夫したいと思います。

報告者 業務委員 坂本 春美



ふれあい看護体験

平成29年7月20日(木)ふれあい看護体験を実施しました。

今年も近隣の高校4校より男性2名、女性7名の合計9名の参加がありました。全員が看護職を目指し、それぞれ今後の進路として看護大学、看護専門学校への進学や病院への就職及び准看護科への進学を考えられていました。施設見学や説明、指導に対しても真剣に取り組まれ、病院の設備や器具、働いている業種など様々な事に関心を持たれているように感じました。

実際に患者さんと触れあい体験して頂き、多くの学びがあり、自分の思っているイメージとの違いに驚きや感動もあったようです。

体験後のレポートでは、「看護師さんが丁寧に優しく接しているのを見て、こんな看護師さんになりたい」「大変な仕事だけど、人の役に立つやりのある仕事だと思う」「体験を通して当院で働きたいという強い決意ができた」等の感想が聞かれました。

ふれあい看護体験を通して、看護師に対する関心を更に高めることに繋がったのではないかと思います。 報告者 東2病棟 吉武 克彦



嬉野中学校職場体験

平成29年8月3日・4日の2日間で嬉野中学校2年生4名職場体験がありました。「人のお世話をすることが好き・小さい時に友達が病気になるい助けたい気持ちになった」など、将来医療関係の仕事につきたいと考えての参加でした。

病棟や介護施設での患者さんとの触れ合い・車いす操作・高齢者体験などを体験していただきました。また、採血の疑似体験・救命処置(心肺蘇生法)も実施していただきました。

高齢者体験では体験セットを付けて実際に坂道や階段を昇降してもらい、四肢の動かしにくさや感覚が鈍くなることを体感し「もっと高齢者に優しく接さないといけないと感じた」という言葉が聞かれました。採血や心肺蘇生法ではシュミレーターを用いて実施し初めて行う看護技術に興味を持ち「テレビで見たことはあったが心臓マッサージがこんなにも体力を使うとは思わなかった」と言いながらも繰り返し実践する姿が見られました。

今回の職場体験で、将来目指している医療関係の仕事に対する理解が深まったのではないかと考えます。



地域連携室通信

秋晴れの心地よい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

今回は精神科地域連携室のご案内です。

現在、精神科地域連携室には5名のスタッフ(精神保健福祉士4名、事務職1名)が在籍しています。可能な限り常駐化に努め、受診・入院相談等の医療に関する相談、経済面や就労、生活支援等の福祉に関する相談の窓口となり対応させて頂いております。

精神科領域では多くの法律、制度があり専門職でさえ分かりにくいと感ずることがありますので、普段あまり関わる事のない方は私たちよりも分かりにくく感じられるのではないかと思います。もし、何かお困りのことがあれば、精神科地域連携室のスタッフが解決へ向けて一緒に考えることができますので遠慮なくご相談下さい。更に専門的な知識が必要な場合もありますので適切な窓口をご案内できるようにしていきたいと考えております。

☎0954-43-0157(代表)

うれしカーニバル参加！

8月10日(木)に開催された、第18回 うれしカーニバルに参加させていただきました。

当日は曇り空で、ゲリラ豪雨にでも遭遇しないだろうかと心配しましたが、雨は降らず、踊るにはちょうど良い天候でした。

さまざまな職種や団体の方が参加されており、当院職員60名の長い列もその中に加わり、「うれしのほほん湯・遊・YOU」、「塩田音頭」を、楽しく、しなやかに踊りました。

嬉野温泉商店街本通りは賑やかな掛け声が響き渡り、観光客の方や地元の皆様と共に大いに盛り上がりしました。



第48回 友朋会秋まつり

開催日：平成29年10月21日(土) 10:00～14:40

場所：医療法人財団 友朋会 グラウンド



バルーンリリース
(被災地復興支援)

かしまんにわか一座
「はっぴいかむかむ」ショー



当会職員選抜による面浮立の披露

11:00～ 出 店(食べ物)：唐揚げ・たこ焼き・焼きそば・どら焼き
アイス・クレープ

12:30～13:10 出 店(ゲーム)：ストラックアウト・ボーリング・輪投げ

大抽選会(2回)・豪華賞品を準備しております

ご不明な点は秋まつり実行委員会までお問合せください
0954-43-0157

友朋会理念 『患者さんのために』

基本方針

- 1 患者さん一人ひとりの立場になって、提供すべき医療を考え、実践する
- 2 在宅での生活を目指した医療・看護・介護・リハビリ・福祉を実践する
- 3 創設時から継続されている退院支援・生活支援・就労支援の更なる充実のために地域包括ケアシステム・地域医療構想の視点を加える
- 4 芸術療法的な治療空間・アメニティーを重視し、芸術療法を治療技法として高める
- 5 医療安全対策・感染予防対策・精神科医療事故防止・防災対策・防火対策など総合安全対策体制を確立する
- 6 地域医療機関との連携や役割分担による医療を実践する
- 7 地域において認知症疾患医療センターを軸にリーダーシップを発揮する
- 8 児童思春期精神医療を実践し、地域の子どもの健やかな成長に寄与する
- 9 安全で質の高いチーム医療を実践し、地域の医療・福祉の向上に貢献する
- 10 医療従事者として自己研鑽に精励する

職業倫理に基づく行動指針

- 1 患者さんの自己決定権を尊重する
- 2 患者さんが自己の情報を知る権利を保障する
- 3 患者さんがセカンドオピニオンを求める権利を保障する
- 4 患者さんに安全で質の高い医療を提供することに最善を尽くす
- 5 患者さんに医療的な説明を十分に行う
- 6 患者さんに治療に関する同意を確実に得る
- 7 患者さんの「基本的人権」を保障する
- 8 患者さんの尊厳を保つ
- 9 患者さんの終末期医療について理解を深め、その実践に努力する
- 10 患者さんの個人情報を守る

診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

※診療時間

◎月曜～金曜

◎午前の部／8:30～12:30
(第1土曜 8:30～12:30)

◎午後の部／13:30～17:00

※ただし、水曜、金曜の眼科外来は10:00より開始

※休診日

◎第2・3・4・5土曜、日曜、祭日
年末2日、年始3日間

※予約診療

◎待ち時間短縮のため、
予約診療とさせていただきます。

※眼科の診療時間

◎月曜日 午後のみ13:00～17:00

◎水・金曜日 午前10:00～12:30
午後13:30～17:00

診療科	月	火	水	木	金	土 (第1午前のみ)	備考
精神科	富松眞之 松尾勝久 吉本静志 中山 享	奥 栄作 田中邦宏 前田直子 菅高一博	吉本静志 中山 享 光吉幸次 渡邊 至	中山 享 田中邦宏 三根禎行 富松眞之 松尾勝久	菅高一博 三根禎行 渡邊 至 奥 栄作	予約者のみ	
	ものわすれ、児童思春期、うつ病などの専門外来を ご希望の方はスタッフまでご相談ください。						
内科	口石櫻子	竹下吉明	岡本純明	林原歳久	榎真佐史	非常勤医師	
泌尿器科	倉富一成	江原 孝	倉富一成	江原 孝	倉富一成	予約者のみ	午後は事前連絡
眼科	崎戸晶子 (13時～)		崎戸晶子 (10時～)		崎戸晶子 (10時～)		(月) 午後13:00～17:00 (水・金) 午前10:00～12:30 午後13:30～17:00

H29.10.1



医療法人財団 友朋会

〒843-0301
佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919
電話:0954-43-0157
FAX:0954-43-3440
E-mail:info@yuhokai.com
URL:http://www.yuhokai.com/



- 嬉野温泉病院 0954-43-0157
- 認知症疾患医療センター 0954-43-0003
- リハビリセンター「ほほ笑み」 0954-43-0194
- ゆうほう会 通所リハビリ 0954-43-0233
- 介護老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900
- 友朋会介護サービスセンター 0954-20-2531
- グループホーム 千寿荘 0954-43-0157
- 就労支援センター「希望」 0954-43-0249
- 地域連携室 0954-43-0255
- 小規模多機能ホーム「孝心の里」 0954-43-7550
- ものわすれメンタルクリニック 092-534-5151
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目15-28